

いしづち

愛媛労災病院広報紙第13巻第2号

（通巻第68号）

2014年4月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針**
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進

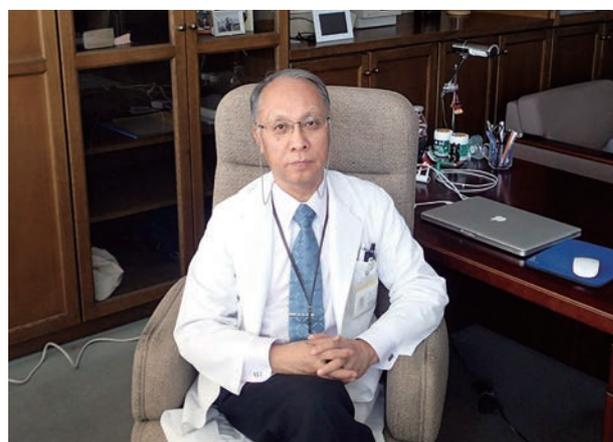
院長就任の挨拶

院長 宮内文久

平成26年4月1日に愛媛労災病院の院長に就任いたしました。私は平成1年4月1日に山口大学医学部から産婦人科部長として赴任し、新居浜で25年間を過ごしたことになります。赴任した頃には「ウチに来んかいや?」といった新居浜弁に驚き、太鼓台の鉢合わせに尻込みしたものでした。さらに、やくぎの発砲事件が起こった約10年くらい前には、北4病棟のカウンター越しにやくぎの兄に胸倉を掴まれ「いいか、妹に変なことが起こったらただではすまんぞ!」とすこまれたこともありました。

このような貴重な経験をしながらか新居浜の生活に慣れ、伊藤・大庭・西岡・篠崎・内藤院長のもとで過ごしてきました。この間、ほっといても大黒字だった安楽な時代から、医師が集団で当院を去り赤字ばかりが膨らむ暗黒時代を経験し、何とかかなあという現在にたどり着きました。

私の仕事は「地域の皆様から信頼される病院」「働きやすい病院」を目指して、病院で働く皆様と共に頑張ることだと考えています。病院はより良い医療を提供することが責務ですが、そのためには病院が絶対無二・無誤謬であるというわけではあり得ません。



新居浜市のように住友別子病院・十全総合病院・県立新居浜病院と同規模の病院が乱立しているところでは、お互いが時に協力し時に競争して切磋琢磨するしかありません。せめて3病院くらいならお互いに楽かもしれません。こうした中でも我々は、何としても生き残っていきたくて考えています。一生懸命働いたスタッフにはそれなりの賞讃を贈り、働くことが楽しい病院でありたいと考えています。

院長就任の挨拶	1
予防接種のおはなし	2
NPPVについて	3
集中治療部（ICU）	3

新規採用ドクターの紹介	4
地域連携研修会	4
ひな祭り	4

予防接種のおはなし

小児科副部長 山岡理恵

当院では、2013年4月より小児科を開設しました。平日午前を中心に、一般外来診療、予防接種、乳児健診などを行っています。常勤スタッフは2名（医師1名、看護師1名）で、家庭に帰ると2児の母&3児のばあばが、小児科外来でお待ちしております。子育ての悩みや、お子さんの健康で気になることなどがありましたら、どうぞお気軽に、当院小児科をご活用ください！

今回は、子ども達の健康と命に関わる予防接種について、お話させていただきます。

ワクチンで防げる病気=VPD

VPDとは、Vaccine (=ワクチン) Preventable (=防げる) Diseases (=病気) のことです。病気の名前だけは、馴染みのあるものも多いと思いますので、これらが“子どもたちの健康と命に関わる！”と言われても、実感が湧かないかもしれません。しかし実際に、今でも日本では、子どもも大人も毎年多くの方がこれらのVPDに感染したり、後遺症を残したり、死亡したりしています。

世界には非常にたくさんの感染症があり、ワクチンがないために予防ができず、年間何十万～何百万という人が命を落とす感染症も少なくありません。そんな中で、ワクチンが開発されている感染症は少数です。ワクチン開発はとても難しいですが、それでもワクチンが作られたのは、それらが重大な病気だからです。せっかくのワクチン、接種しないのはもったいない！ VPDはワクチンで防ぐべき病気です。大切な子ども達を守るためにも、ワクチンのメリットを最大限に生かしましょう。

子どもの免疫とワクチン

乳幼児期には免疫（病気に対する抵抗力）が未発達なので、色々な感染症にかかります。しかし、子どもがかかりやすいのは風邪のように軽いものだけではありません。中には、確実な治療法がなく、深刻な合併症や後遺症になったり、命を落としたりする危険のある病気もあります。そういった感染症は、かからないように予防することが大切です。ワクチン



ンこそ、もっとも安全な予防方法です。

世界と比べた、日本の予防接種の現状は？

医療大国の日本ですが、予防接種に関しては、世界的にみると非常に遅れています。日本ではVPDにかかってしまったために重い後遺症に苦しんだり、命を奪われたりする子どもが後を絶ちません。これは、日本のワクチン接種率が欧米などに比べて低いからです。2007年には、大学生を中心に麻疹（はしか）が流行して、大きなニュースになりました。しかし国外を見てみると、先進国はもちろん、例えば南米大陸でも、麻疹は撲滅された病気です。流行しているのは日本とアジア、アフリカの発展途上国ぐらいです。世界では、VPD撲滅を目指してワクチン接種が積極的に行われており、WHO（世界保健機関）でも、「拡大予防接種事業」を行って、世界各国でワクチン接種を勧めています。

同時接種の必要性・安全性

日本では、1歳までの赤ちゃんが接種する主なワクチンは6～7種類で、接種回数は15回以上になります。また、生ワクチンの場合は、次のワクチン接種までに4週間あける必要があります。そこで有効なのが、同時接種です。同時接種は、必要な免疫をできるだけ早くつけて子どもたちを守ることに繋がります。予防という本来の目的を果たす意味で、非常に重要です。なお、同時接種で副反応が出やすくなったり、同時接種に特有の副反応が出たりすることはありません。これは、長いあいだ世界中で行われてきて問題が起こっていないことが、最大の証拠になっています。

労災病院小児科では、定期接種はもちろんですが、任意接種のワクチン（B型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチン、みずぼうそうワクチン、おたふくかぜワクチンなど）に関しても、積極的に勧めています。ワクチンに関する疑問などありましたら、ぜひお気軽に相談して頂けたらと思います。これからの将来を担う子ども達を、ぜひ一緒に守っていきましょう！

子どものかかりやすい、主な感染症
～ VPDとVPDでないもの～



NPPV(非侵襲的陽圧換気・人工呼吸器)について

臨床工学技士 青木 究

みなさんは人工呼吸器と聞くとどんな印象があるでしょうか？

ほとんどの方があまりいい印象を思い浮かべることはないと思います。

実際に人工呼吸器をつける患者様はもちろん大変な苦勞をされていて、口から大きな管を入れていなければいけない不快感や、人工呼吸器と息が合わない場合は大変苦しく感じる時があります。

そこで最近ではNPPV（非侵襲的陽圧換気）と呼ば



れている人工呼吸器が注目されるようになりました。これはマスクを頭から被ってもらい人工呼吸を行う方法です。NPPVは比較的簡単に人工呼吸を開始でき、また中止する際もマスクを外してもらいだけなので非常に簡単に治療が行えます。しかし、



全ての患者様にこのNPPVが適するわけではなく、どうしても管を入れて人工呼吸器が必要な場合もあります。

私たち臨床工学技士は、呼吸器疾患の患者様にNPPVの治療を理解して頂き、適切な治療ができるよう治療開始からの補助や装置の管理などを行っています。

当院の集中治療部（ICU）が開設され25年の節目を迎えました。

日本集中医療学会の認定施設であり、内科系・外科系問わず重症患者の治療を集中的に行っています。平成24年度のICU入室患者数は448名で、定床4床のところ1日平均3.4名の受け入れをしています。診療科別患者数は、循環器科178名、外科110名、整形外科89名、産婦人科26名、泌尿器科6名、内科2名、総合診療科2名、麻酔科1名、歯科1名でした。院内外の救急患者や、重症患者の治療、看護を行っています。心疾患、虚血性心疾患は265名とほぼ半分以上を占めています。その他にも一般術後や外傷など様々な疾患や病態の患者様を受け入れており、質の高い集中治療を提供するために、集中治療部部長1名、看護師15名が日々自己研鑽に励んでいます。

今年から、長期入室患者や人工呼吸器装着患者の継続看護の充実をはかるために、病棟看護師と共に退室前カンファレンスを実施しています。

ICU退室前に病棟看護師と合同でカンファレンスを行うことで情報共有を行い、継続した質の高い看護が提供できていると思います。これからも患者様に安全で安心できる質の高い看護が提供できるよう努力していきます。



新規採用ドクターの紹介

塩出 昌弘

役職・所属: 呼吸器内科・部長
経験年数: 30年
専門分野: 呼吸全般、アレルギー

前田 貴生

所 属: 循環器内科
経験年数: 8年
専門分野: 心臓カテーテル検査・治療
趣 味: 旅、読書、観劇、ジョギング
コメント: 循環器疾患全般の地域医療に貢献できるようがんばります。

松岡 裕貴

所 属: 泌尿器科
経験年数: 7年

永瀬 隆

所 属: 外科
経験年数: 4年
専門分野: 外科一般
趣 味: 音楽
コメント: 地域の医療に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願いします。

松木 祐太

所 属: 整形外科
経験年数: 3年

認定看護師による地域連携研修会を開催して

緩和ケア認定看護師 三浦 彩

緩和ケア認定看護師として活動する中で、リンパ浮腫のある患者様に適切な指導とドレナージの施術を



行いたいという思いが強くあり、専門的な知識と技術を学ぶために医療リンパドレナージ講習会に参加し、セラピストを取得しました。

今回「終末期におけるリンパ浮腫」というテーマで、院外研修を企画した結果、53名の応募があり、2回に分けて地域連携研修会を開催しました。

講義だけでなく、演習を交えることで、知識・技術を修得してもらえたと思います。積極的に質問もあり、活発な意見交換ができ、効果的な研修会になりました。認定看護師は、専門分野において役割モデルとして、実践・指導・相談に対応し、質の向上を図ることが目的です。

今後は、院内での専門研修会も地域へ向けて公開していく予定です。地域の近隣施設や病院との連携を図りながら、幅広く専門性を伝えていきたいと思っています。

ひな祭り

中央検査部 安部川 卓

女の子が産まれて初めての節句を初節句といい、嫁方の親が子どもの身代わりとなって災いが降りかからない様に、という思いが込められた雛人形を贈ります。また、厄除けとなる「桃の花」、体から邪気を祓う為の「お白酒」、よもぎの香気が邪気を祓うといわれる「草もち」、人の心臓をかたどり子どもの健康を祈る親の気持ちの現れの「ひし餅」、自分のかたわれでなければ絶対に合わないことから、女性の貞節を教えた「蛤(はまぐり)」などが供えられます。

また、ひし餅や雛あられに見られる白・青・桃の3色はそれぞれ、雪の大地(白)・木々の芽吹き(青)・生命(桃)を表しており、この3色のお菓子を食すことで自然のエネルギーを授かり、健やかに成長できるという意味があるそうです。

当院も春を迎えて健やかに成長できるよう、スタッフ一同一致団結して頑張っていきたいと思います。



！ 広報紙編集メンバー 委員長: 稲見精神科部長 委員: 木戸副院長、医局長(都志見外科部長)、看護副部長、師長1名、師長補佐1名(北6土肥)、小野！ 薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、鈴木管理栄養士、総務課長、庶務係長、世一庶務係員、地域医療連携室員